

《担当者名》歯科クリニック

教授 / 古市 保志(furuichi@) 教授 / 長澤 敏行(nagasawa@) 准教授 / 門 貴司(kado@)  
 講師 / 加藤 幸紀(satsuki@) 助教 / 清水 伸太郎(sshimizu@) 助教 / 部 佳奈子(shitomi@)  
 助教 / 柳瀬 舜佑  
 大学病院  
 教授 / 川上 智史(kawakami@) 講師 / 森 真理(marichan@) 助教 / 尾立 達治(odachi@)  
 助教 / 小西 ゆみ子(yumikom@)

【概要】

歯周疾患の治療に必要となる、歯周組織検査と歯周基本治療内容を理解し、歯周組織検査と歯周基本治療が実施できる知識、技能及び態度を修得する。

【学修目標】

- 歯周組織検査（ブラーク染め出し、歯の動揺度検査、歯周ポケット検査）を実施する。
- 歯周疾患が診断する。
- 治療計画を立案する。
- 適切なブラークコントロール指導を実施する。
- 歯周疾患の簡単な処置（スケーリング・ルートプレーニング）をを実施する。
- 暫間固定を実施する。
- 歯周治療における生活習慣に関して適切に指導する。
- 禁煙指導・支援による歯周疾患の予防を実施する。
- 歯周外科手術の介助が適切に実施する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	登院実習説明・各種機材説明	登院実習説明と保存科外来の各種器材について説明を受け、その使用法等を理解する。	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 部 佳奈子 柳瀬 舜佑 川上 智史 森 真理 尾立 達治 小西ゆみ子
	相互実習	歯周治療の最初のステップである下記の各種口腔内検査法を相互実習により学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯肉炎指数</li> <li>・ 歯周プローピング深さの測定</li> <li>・ 動揺度</li> <li>・ ブラークチャート</li> </ul> (F-7-3- ~ )	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 部 佳奈子 柳瀬 舜佑 川上 智史 森 真理 尾立 達治 小西ゆみ子
上記以外	外来実習	外来見学、介助及び一部診療を行い、下記の各歯周治療の内容についての技能、態度を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診査（EPP,GI,PLI,動揺度,模型）</li> <li>・ ブラッシング指導</li> <li>・ 歯肉縁上スケーリング</li> <li>・ スケーリング・ルートプレーニング</li> <li>・ 歯周外科</li> <li>・ その他</li> </ul> (F-7-3),E-3-3)-(3)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 部 佳奈子 柳瀬 舜佑 川上 智史 森 真理 尾立 達治

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			小西ゆみ子

**【授業実施形態】**

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

臨床実習 で課せられた課題とケース数の総合評価（ミニマムリクワイアメントは別途提示）とする。

注1：未修了の場合、総合学力試験の受験資格が与えられない。

注2：総合学力試験として当分野領域の多肢選択式問題を出題し、正答率60%以上を合格とする（出題数は別途提示）。

**【参考書】**

「臨床歯周病学」医歯薬出版

講義時配布資料

「歯周治療学実習書」北海道医療大学歯学部歯周歯内治療学分野編

シミュレーション実習時には、別に配布する資料を使用する。

**【学修の準備】**

シミュレーション実習時には、教科書・講義資料と歯周治療学実習書を復習し、実習内容を理解したうえで行う（30分）

参加型臨床実習時には、事前に担当教員と打ち合わせし、治療内容について十分に理解する（60分）。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を、臨床実習を通じて修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を、臨床実習を通じて身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を、臨床実習を通じて身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を臨床実習を通じて実践する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を臨床実習を通じて身につける（社会的貢献）。

**【実務経験】**

古市 保志（歯科医師）、長澤 敏行（歯科医師）、門 貴司（歯科医師）、加藤 幸紀（歯科医師）、清水 伸太郎（歯科医師）、  
 部 佳奈子（歯科医師）、川上 智史（歯科医師）、森 真理（歯科医師）、尾立 達治（歯科医師）、小西 ゆみ子（歯科医師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

臨床実習において、歯周疾患の予防と治療を通じて口腔機能の回復の意義と全身の健康に寄与する科目であることを理解する。学術的根拠を背景とした診療の実際について学ぶ機会である実習において、臨床実務経験のある教員を配置することで、歯周治療学に関する優れた教育成果をあげることが期待できる教育内容である。